古典の勉強の基本中の基本

一年生の皆さん、元気ですか。前回いきなり「竹取物語」の話をしてしまいましたね。古典の勉強では、実際その時代に書かれたものを読みます。これが古典の勉強の基本中の基本ですからね。皆さんは小学生時代に音読をしてきましたか。

古典の勉強において、音読は非常に大切です。なぜなら音読で身につけなければならないことがあるからです。今日はその話をしますね。

きょうは夏のように暑いですね。熱中症に注意しましょう。

こう書かれていれば、日本人なら読めますよね。次のように書かれていたらどうですか。

けふは夏のやうに暑いですね。熱中症に注意しませう。

「ん、なんだ？」と思った人もいるのでは？そうなのです。これが古典のやっかいなところです。今の日本では、人が話すように書き記すということになっていますが、古典の世界ではそうなっていません。したがって、古典勉強は「日本語なのに読めない」というところからスタートします。

「昔と今とではどうして違うの？」と思った人もいるかもしれませんね。実は、明治時代から大正時代にかけて、「言文一致運動」というものがありました。これは書き言葉を話し言葉に近づけようという運動です。つまり、書くときにも話す通りに書こうというものです。今は令和の時代。当然そのようになっていますね。

しかし、古典はその時代に、当時の人々の手によって作られたもの。現代人が勝手に書き換えてはいけません。当時書かれていたままで、今の言葉で読もうと言うことになっているのです。

皆さんのもとに届けられる「国語便覧」の四十二ページにそれが説明されています。これを暗記する必要はありません。古典の文章を何度も何度も声に出して読んでいれば、自然とできるようになりますから。だから、古典の勉強で音読は大切なのです。

古典の文章が書かれている仮名遣いを「歴史的仮名遣い」、今の時代の書くときの仮名遣いを「現代仮名遣い」と言います。この仮名遣いについては、高校入試でも必ずといっていいほど出題されますからね。三年間声に出して読んで身につけましょう。

（五月三日の分）